

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ③国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリー等による教育課程の充実

##### 《理工農系》

#### ●山梨大学医学工学総合教育部応用化学専攻、機能材料システム工学専攻 「国際燃料電池技術研究者の基礎実学融合教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリーを検討したが、プログラムの限られた期間で行うことは非常に困難である。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

単位互換協定やダブル・ディグリーは大学内の規定や専攻の設置基準などを見直す必要があり、短期間で対応することが難しい。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

単位互換などは困難であったが、国内外機関の教育研究者が特別講義やセミナーなどを通して実質的に指導する機会を設けることができたので、学生の資質の向上という点からは当初の目的を達成することに問題は生じなかった。